

船橋市議会議員

(37歳)

みっはし

三橋さぶろう

議会活動報告



軽自動車の救急車

8月23日から24日の二日間に渡って兵庫県に行政視察に行っていました。1日目は姫路市の三歳児健診時に目の異常を発見するためのオートレフ検査を完全実施に切り替えたことについて担当部署にお話を伺い（後日、別途ご報告）、午後は姫路市から沖合約18キロ先の瀬戸内海にある家島（人口約3,800人）に渡りました。家島では平成23年に全国初の軽自動車の救急車が配備されています。導入の経緯と実際の運用状況等についてお話を伺い調査してまいりました。



【軽自動車の救急車導入の経緯】

家島の95%が丘陵地（急斜面の山）であり生活する土地は非常に限られている。大半の道路は非常に狭い道路であり、一番広い道路でも4メートルしかないため普通自動車もほとんど走行できない。また道路から各住宅までの道の多くは未整備でさらに幅員が狭いほか屈折や急こう配、階段である場合がありストレッチャーで搬送するにもかなりの時間を要することから軽自動車を活用した救急活動が有効と考えたからだそうです。

船橋市内も地域によっては家島と同じように、道路が非常に狭く入り組んでいる地域があります。ある程度、幅員ある道路でも渋滞が激しく救急車が一般

(裏面へ続く)

三橋さぶろう プロフィール

- 1978年 長野県木島平生まれ(37歳)
- 2002年 中央大学商学部卒業後
株式会社カネボウ勤務
江東区健康スポーツ公社勤務
- 2008年 衆議院議員 野田佳彦秘書
- 2011年 衆議院議員 若井康彦公設秘書
- 2015年 船橋市議会議員選挙 当選
・文教委員会 ・広報委員会 ・民進党会派
- 特 技: クロスカントリースキー
1998年長野オリンピックボランティアスタッフ
2002年ソルトレイクシティ・パラリンピック日本代表コーチ
- 家族:妻、息子(3歳)

(前面から)

車両を追い抜くことができないこともあります。また、救急車が傷病者を収容するため停止していると一般車両の通行の妨げになる場合もあります。こういったこともあるので、私は船橋市でも軽自動車の救急車を導入し活用できるのではと感じました。

【軽自動車の救急車のメリット】

- ・車両が小さいため小回りができる。運転操作が容易。
- ・狭い道路でも軽自動車のため走行が可能。現場到着時間の短縮。
- ・救急隊員の負担軽減。
- ・燃料費、修理・点検費、車検、保険料など経費削減
- ・普通自動車よりも軽自動車の方が静音（近隣住民への騒音配慮）。

【課題】

- ・車両が小さいため車内での活動スペースの確保。
- ・資機材の搭載に限りがあるため、事案ごと持込み機材が変わる。
- ・乗車定員が4名のため救急隊員3名と傷病者1名しか乗車できない。

【その他】

軽救急車の車内も見学させていただきました。やや小さいストレッチャーが載せられていましたが、身長170cmの私も十分に横になれます。傷病者が大きい方の場合は、膝を軽く曲げると収容できるそうです。狭い車内であっても、装備品や資機材はコンパクトにまとめられていました。特に資機材で驚いたことは船橋市の救急車（ドクターカーを除く）には装備されていない自動式心マッサージ器が積載されていました。

軽自動車の救急車のほかに同じ車両で軽自動車の「多目的車」が配備されています。これは軽救急車が車検や故障の場合に代替運用するほか、災害内容に応じて消火活動用資機材や救助活動用資機材を搬送するために使われます。

今回、行政視察した内容をもとに8月25日から始まっている平成28年第3回定例会の一般質問で軽救急車のほか自動式心マッサージ器の導入等について取り上げていきたいと思っております。

軽救急車の主な救急救命資機材

- ・自動式心マッサージ器
- ・AED
- ・メインストレッチャー
- ・スクープストレッチャー・バックボード
- ・気道確保器具
- ・静脈路確保用資機材
- ・酸素吸入器・血圧計・心電計・吸引器

三橋さぶろう事務所

〒274-0063 船橋市習志野台4-10-12 1階 (新京成線習志野駅から徒歩4分)

電話: 047-402-2810 FAX: 050-3488-3190

E-mail: funabashi@mituhashisaburo.jp

HP: <http://mituhashisaburo.jp>

事務所にお越しの場合は、あらかじめご連絡いただくと助かります。